

# 電研部、4学科の技術結集

第94回  
せともの祭  
9月13、14日

## で披露

瀬戸工科高校（瀬戸市）の創立130周年を記念して、生徒たちがマスコットキャラクター「にゃわんロボ」を制作した。それぞれの得意分野を生かして作った動くロボットで、節目の年を飾るにふさわしい出来に。瀬戸市で13、14日に開かれる「せともの祭」で、瀬戸蔵（蔵所町）前に設ける学校のブースで初披露する。

（宮下爽）

「にゃわんロボ」は、瀬戸の一環で、2024年5月、工科高のものづくりの楽しさから制作が始まった。部活を広く発信するプロジェクト「電研部」が中心にな



にゃわんロボ（中央）を制作した瀬戸工科高電研部の生徒ら。せともの祭でお披露目する＝瀬戸市東権現町の同校で



り、高さ約2尺、幅約1尺のロボが完成。また4学科それぞれの強みを生かし、新素材工学科が繊維強化プラスチック（FRP）で体を制作したり、ロボット工学科が制御コンピュータをプログラミングしたりした。

外見にも各学科で扱う「物」を採り入れ、学科の特徴を分かりやすくPR。頭にかぶった茶わんは工芸デザイン科を、右手のフラスコは新素材工学科、しっぽのねじは機械科、にゃわんロボ全体がロボット工学科を表している。

制作には、同校の卒業生が多く在籍する「バナソニックスイッチギアシステムズ」（尾張旭市）も協力。センサーで一番近い人を捉え、その人の動きに合わせて顔を向けるようにした。さらに胸元にある4色のボタンを押すと、学科を紹介する映像が流れる

## 人を感知、AIで会話もできる

機能や、AI（人工知能）を活用してにゃわんロボと会話できる機能も搭載した。

ただ、こうした機能はまだ調整段階とのこと。せともの祭のブースでは、外見のみ楽しんでもらい、各種機能は動かさない。ブースでは陶芸体験もある。11月15日にバルティセとで開く地域イベント「瀬戸窯工Day」では、機能のお披露目も予定する。

ロボのボイスコミックや4コマ漫画も制作し、漫画は同校ホームページで公開している。

昨年からの中心に携わってきたのは、電研部の田中里紗さん（18）、富田伽威さん（18）、上條大悟さん（17）いずれも3年。主に中のフレームを担当してきた。完成したロボを見て「ミリ単位でバランスを調整するのが大変だった。こんな大きいものは作ったことがなかったけど、楽しかった」と振り返りつつ、ロボを見た子どもたちが「ものづくりに興味を持つようになれば」と願った。



「にゃわんロボ」が生まれた経緯を描いた生徒の4コマ漫画